キャリアアップ通信

Vol.3　11月号

発行：医療局職員課

はじめに

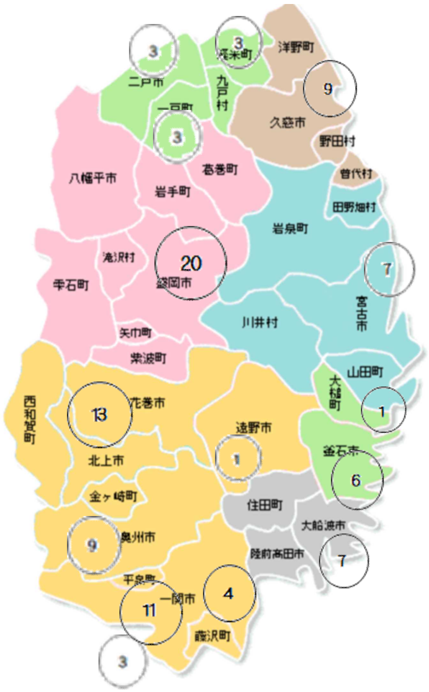
皆さん、こんにちは！岩手県医療局職員課人事担当です。今年もあとわずかになりましたね。

県立病院において資格取得し活躍している職員紹介の第３号をお届けします。

今月は**認定看護師、細胞検査士、診療情報管理士**の皆様を紹介します。今後の参考にしていただければと思います。

認定看護師の紹介　（17分野97名）

17分野97名が活躍する認定看護師の分野別人数の紹介です。



（令和２年４月１日現在）

皮膚・排泄ケア	14名
感染管理	13名
緩和ケア	12名
がん化学療法看護	10名
救急看護	9名
認知症看護	8名
摂食・嚥下障害看護	5名
乳がん看護	4名
手術看護	4名
がん性疼痛看護	4名
精神科	3名
糖尿病看護	2名
透析看護	2名
がん放射線療法看護	2名
集中ケア	2名
新生児集中ケア	2名
脳卒中リハビリテーション看護	1名

細胞検査士への道　（県立病院全体で12名）

【細胞検査士とは】

がんの早期発見や早期診療のために、人体から採取された細胞を顕微鏡で観察し、異常細胞を見つけ出す業務を担当する臨床検査技師。

【要件】

1、臨床検査技師の資格を有する
2、細胞診検査の実務に１年以上の従事経験を有する
3、細胞検査士養成所あるいは養成コースのある大学の卒業（見込み）の者

要件を満たした者が、認定試験を受けることができます

【服務の取り扱い】

各種研修、学会等の旅費等を支給

→詳細は佐藤さんの記事をご覧ください！

診療情報管理士への道　（県立病院全体で63名）

【診療情報管理士とは】

患者の診療情報が記録されたカルテの管理や診療情報の分析・活用を行う専門職。医療局において資格取得のためサポートを行っています。

【要件】

1、日本病院会認定の大学・専門学校を卒業
2、２年制の通信教育を受講した者（原則２年制以上の短期大学または専門学校卒以上の学歴を有する者だが、現在病院で勤務している者は高卒でも可）

要件を満たす者が、認定試験を受けることができます。

【服務の取り扱い】

通信教育の受講料、受験料、スクーリングの旅費等を支給

【取得までの流れ】

→詳細は吉田さんの記事をご覧ください！

資格をとりたい！ → 病院長からの推薦 → 医療局へ申請 → 医療局で審査 → 派遣決定 → ２年間の通信教育受講 → WEBによるオンライン授業 → 認定試験合格

【問合せ：医療局職員課人事担当　☎019-629-6861　研修担当☎019-629-6321】

救急看護認定看護師　特定行為教育課程（A コース呼吸器関連）修了

胆沢病院　外来　　主任看護師

小野寺　真知子　さん



Q　資格取得のきっかけを教えてください。

　学生の頃から救急看護に憧れがあり、急性期病棟での看護を希望して働いてきました。急性期の患者さんやご家族への看護を通して、より専門的な知識・技術を習得し提供したいと考え、救急看護認定看護師を目指しました。

　さらに認定看護師として、呼吸ケアチームの活動を行い、患者さんにより高度で即時的なケアを提供したいと考え、特定行為教育課程の受講に至りました。

Q　取得までの流れはどうでしたか。

　急性期病棟の勤務から救急外来を経験し、救急看護に関わる研修等へ参加しながら、認定看護師教育課程受験への準備を進めました。救急看護認定看護師資格を取得してからは、救急外来に勤務し、呼吸ケアチーム活動を通して、病棟で人工呼吸器を装着する患者さんへのケアを病棟のスタッフとともに行ってきました。その看護実践をもとに、呼吸器関連の特定行為教育課程受講へ挑戦しました。

Q　研修中の様子を教えてください。

　救急看護認定看護師、特定行為研修ともに、講義、課題レポート、試験、実習を通して、自分の未熟さや知識不足を痛感しました。同じ志を持った仲間と協力し、励まし合い、乗り越えてきました。

Q　資格取得後の院内での活動を教えてください。

　主に救急外来での救急看護の実践を行い、週に一度、呼吸ケアチームとして、病棟の人工呼吸器装着患者さんへの人工呼吸器の早期離脱へ向けた活動を行っています。院内スタッフへの呼吸ケアや救急看護の勉強会の企画・実施、救急救命士の病院実習での指導なども行っています。

Q　一日のスケジュールを教えてください。

　救急外来での急患対応の他、心臓カテーテル検査・治療の介助を行ったりしています。毎週１回、呼吸ケアチームとして病棟訪問しています。そのほか、病棟からの依頼に合わせて、呼吸ケア、勉強会等の対応をしています。

Q　これから資格取得を目指す方へのアドバイスをお願いします。

　自分の興味のあること、得意なことを、より専門性を高めて患者さん・家族への看護に活かしてほしいと思います。大変なこともありますが、その経験も出会った仲間も自分の宝になります。

細胞検査士

中央病院　臨床検査技術科　　臨床検査技師

佐藤　昂　さん

Q　資格取得のきっかけを教えてください。

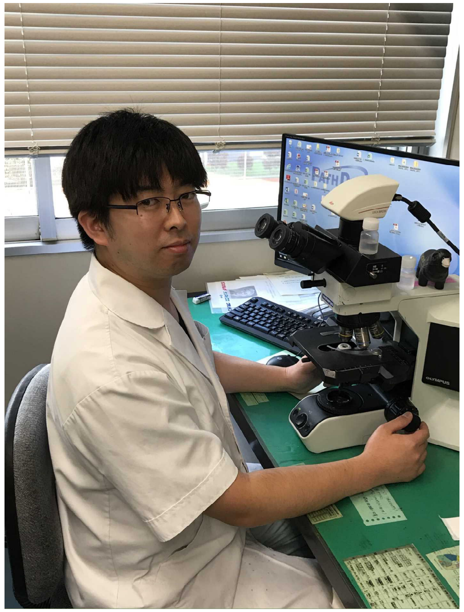
　同じ仕事をしている父からのアドバイスで形態学に興味を持った事と、大学で病理の研究室に所属して勉強した事がきっかけで、細胞検査士を目指すようになりました。また働き始めてから、病理検査をやっていくうえで基礎となる資格であると病理医の先生に教えて頂いた事も、より資格取得への意欲を掻き立てたきっかけです。

Q　取得までの流れはどうでしたか。

　細胞検査士になるには、認定試験を受験して合格する必要があります。認定試験を受験するには、養成所あるいは養成コースのある大学を卒業することか、細胞検査の実務に１年以上従事する必要があります。私は、大学を卒業してから県立病院で働き、中央病院に転勤になって本格的に病理検査に従事するようになってから、認定試験に臨みました。

Q　研修中の様子を教えてください。

　2 週間の細胞検査士の養成講座に参加させていただいた事はとてもいい経験になりました。働き始めてから、朝から晩まで一日中座学を受ける事や顕微鏡を覗き続ける事がなかったため、集中的に勉強する事が出来ました。普段の試験対策としては、休日や仕事が終わってからの時間で、知識を頭に詰め込む事と、顕微鏡で標本を観察することをひたすら繰り返しました。結婚、子育てと時期が重なり、中々時間が取れない中での勉強で、かなりつらい日々でしたが、家族と、資格を取得して働いている先輩方に支えられて乗り越える事が出来ました。



Q　資格取得後の院内での活動について教えてください。

　細胞検査士の一員としてローテーションに入り、検体の処理や、標本の観察、所見の入力を行っています。細胞検査士の資格取得はスタート地点に立ったに過ぎません。試験に出題されるような典型的な症例だけではなく、難解な症例も多く、先輩方から指導していただきながら、日々奮闘しています。研鑽を積み、より良い診療に繋がる結果提出を求めていきます。

Q　業務の流れを教えてください。

　標本は細胞検査士 2 名でダブルチェックして観察し、病理医の確認を経て報告となります。検体が提出された際にはその都度処理を行い、また、他科へ出向いての検体処理等も行っています。合間に標本観察を行うため、その日の手術や検査の予定次第で、1日のスケジュールを変更しながら業務を行っています。手が開いた時間は、薄切など組織検査の仕事もしています。

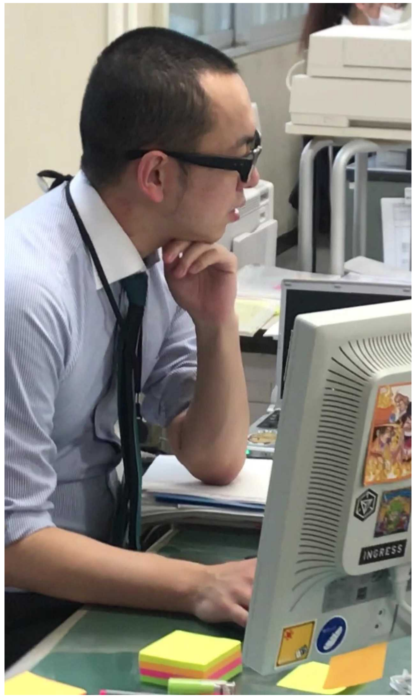
Q　最後に一言お願いします。

　県立病院では働きながら資格取得した人が 6 人います。資格取得は簡単ではありませんが、経験豊富な先輩やサポートがあるので、働きながらも目指していけます。病理検査全般に活かせる知識・技術になるので、この資格取得をベースに学びを深め、認定病理検査技師のようにさらなるキャリアアップを目指せます。細胞検査士になって、一緒に症例検討しましょう。

診療情報管理士

中央病院　医療情報管理室　主任

吉田　誠一　さん



Q　資格取得のきっかけを教えてください。

当時勤務していた病院でDPC業務に携わることになった際に、診療報酬請求だけでなく疾患や治療などの診療内容について自分のレベルが低く理解を深めなければ業務を行うことが難しいと感じていました。そんな時に、医療局の診療情報管理士通信教育の募集がありました。先に学んでいた先輩には、知識が豊富な方々がいましたので自分も少しでも近づきたいと思い資格を取得することを決めました。

Q　取得までの流れはどうでしたか。

診療情報管理士の認定は、病院に勤務している場合、日本病院会が実施する通信教育を2年間（基礎過程1年、専門課程1年）受講することで受験資格を得ることができます。医師や看護師等の場合は、専門課程からの1年間に短縮され受験資格を得られます。以前は、集合形式のスクーリングにて単位を取得する必要がありましたが、現在はWeb授業（eラーニング）で自分の好きな時間に授業を受け、単位を取得することができます。病院に勤務していない場合、大学や専門学校で学ぶこともできます。受験資格を得た後、毎年1回（2月）行われる認定試験に合格すると「診療情報管理士」として認定されます。

Q　研修中の様子を教えてください。

課程毎にレポートの提出や単位取得の試験があり、勉強と仕事の両立が大変でした。

携わっていた医事業務やDPC業務を行う中で、研修で学んだことを実務に活かすことができたこと、一緒に資格取得に向けて頑張っている仲間や先輩方に助けていただき、2年間頑張ることができました。

Q　資格取得後の院内での活動を教えてください。

現在勤務している中央病院の医療情報管理室では、診療記録の監査・開示、疾病統計、がん登録、DPC業務（データ提出、分析）、電子カルテ管理など様々な医療データの管理を担当しています。紙運用から電子化のデータ管理が主流となり、取り扱う情報量も範囲も広がっています。

当室で取り扱う情報は、経営分析や医療の質の向上にも寄与する重要なデータです。元となる診療記録が整理されていないと正しい情報を集めることができません。日々監査とフィードバックを行い、質の高い記録やデータを残すよう改善に努めています。そのような情報を分析し、提供したデータが診療に活用されたとき、改善したときに重要な仕事をしていることを実感します。

Q　一日のタイムスケジュールを教えてください。

時期により業務内容が変わってきますが、一月の中で前半はデータ作成や監査、後半はデータ分析や資料作成を中心に業務を進めています。随時、院内から依頼された疾病や記録情報の提供、患者さんからの診療記録の開示申請の対応も行っています。記録の開示に関わることで、院内だけでなく患者さんや病院外の方が記録や情報を見たときに、どのように見えるかを考えながら第三者にもわかりやすい記録やデータ管理ができるように意識が高まりました。

Q　これから資格取得を目指す方へアドバイスをお願いします。

自分がここで診療情報管理士として業務に携われているのは、これまで中央病院や他県立病院で診療情報管理を立ち上げ、引っ張ってきた方々がいるおかげです。現在も日々勉強することがいっぱいで苦戦していますが一緒に考えてくれる先輩や仲間がいるため心強いです。岩手県の診療情報管理業務に携わる方や関心をもつ方が情報交換できるように「岩手県診療情報管理研究会」を立ち上げ、研修会など交流できる活動も行っています。興味のある方はご連絡ください。